

第55回 CIML 委員会、及び第27回 APLMF 総会の報告

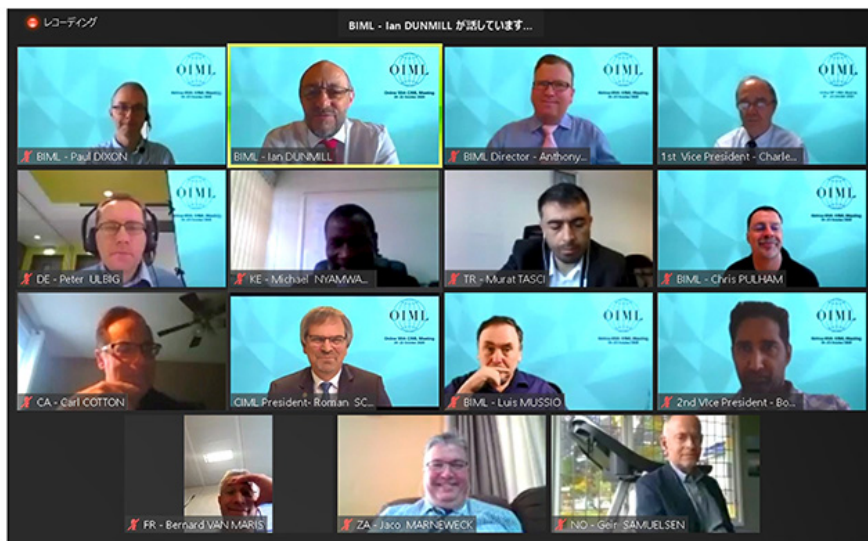
1. OIML（国際法定計量機関）の年次総会である第55回 CIML（国際法定計量委員会）が、2020年10月20日～22日にオンライン形式にて開催されました。その概要は以下の通りです。

- ・本委員会がオンライン形式の開催であったため、CIML委員による決議案への投票は、本委員会終了後、OIMLホームページにてオンラインで実施されました。その結果、12月4日に以下の全ての事項は、賛成多数により承認されました。
- ・OIML総会は1年延期され、2021年の年会費は2020年と同額になりました。
- ・OIMLとBIPM（国際度量衡局）との連携促進が提案され、合同タスク・グループ（JTG）が設立されました。連携活動としてJTGのToR（付帯事項）の作成、両機関のMoU（合意事項）の締結、計量用語集の改定、途上国支援、地域計量機関との連携等が提案されました。
- ・新R148（非観血非自動血圧計）、新R149（非観血自動血圧計）、新R150（湾曲した滑り台を用いた自動はかり）、R129（多次元寸法測定器）、D1（国家計量制度）、新D35（石油計量表）、新D36（液体用基準体積管）が承認されました。D35及びD36は産総研のTC8事務局が担当しました。
- ・証明書制度（OIML-CS）の運営委員会（MC）の議長に、英国のマニー・パネサー（Mannie Panesar）氏が推薦され、承認されました。
- ・OIML功労賞（メダル）が松本毅（国際計量室）に授与されました。
- ・56回CIML委員会及び第16回総会は、2021年10月に中国の蘇州市において開催される予定です。

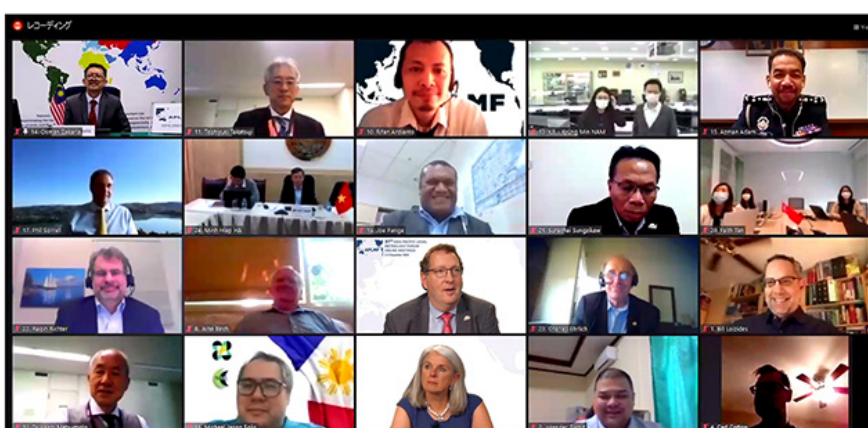
2. 第27回 APLMF（アジア太平洋法定計量フォーラム）総会が、2020年12月3日～4日にオンライン形式にて開催されました。その概要は以下の通りです。

- ・議長と事務局がマレーシアに引き継がれました。新議長は、MMIM（マレーシア国家計量標準研究所）所長のオスマン・ザカリヤ（Osman Zakaria）博士です。
- ・初日のオンライン・セミナーでは三つの講演、(A) 法定計量におけるソフトウェアの検証（マレーシアのアズワン氏）、(B) CTTのための市場調査プロジェクト（オーストラリアのハイネス氏）、(C) IoTと計量機器のネットワーク化の進展（ドイツのシュワルツ博士）が提供されました。
- ・第28回 APLMF総会は、2021年11月にオンラインで開催される予定です。
- ・APLMF功労賞がタイのスラチャイ・サンジカウ氏に授与されました。

【参考：計測標準と計量管理の記事】



第55回CIML委員会



第27回APLMF総会